

脱炭素先行地域とは

- 地域脱炭素ロードマップに基づき、**2025年度までに少なくとも100か所の脱炭素先行地域を選定し、脱炭素に向かう地域特性等に応じた先行的な取組実施の道筋**をつけ、**2030年度までに実行**
- 農村・漁村・山村、離島、都市部の街区など多様な地域において、**地域課題を解決し、住民の暮らしの質の向上を実現**しながら脱炭素に向かう取組の方向性を示す。

脱炭素先行地域とは

民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減も地域特性に応じて実施する地域。

民生部門の
電力需要量

=

再エネ等の
電力供給量

+

省エネによる
電力削減量



スケジュール

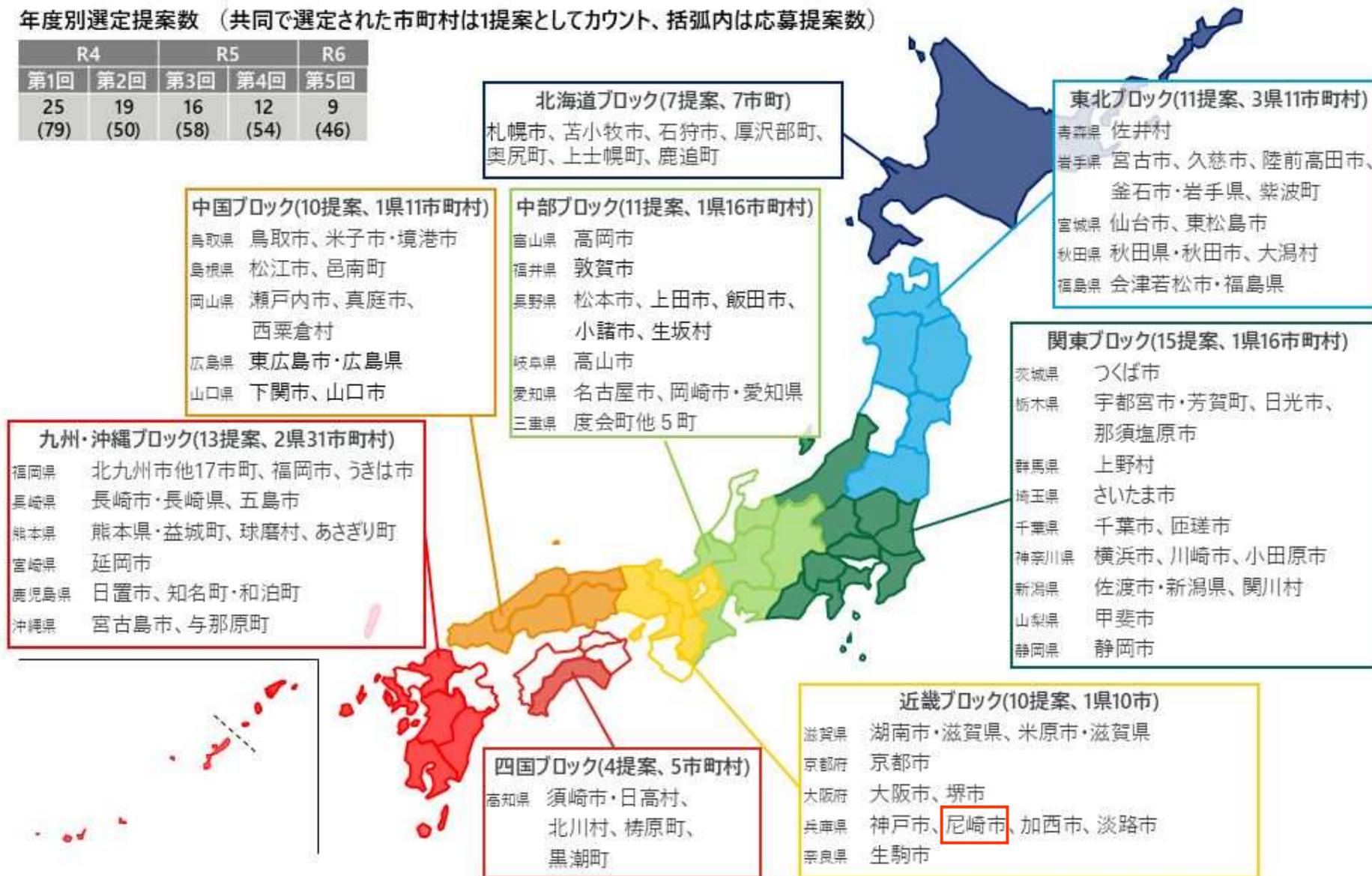
	第1回選定	第2回選定	第3回選定	第4回選定	第5回選定	第6回選定
募集期間	<2022年> 1/25～2/21	<2022年> 7/26～8/26	<2023年> 2/7～2/17	<2023年> 8/18～8/28	<2024年> 6/17～6/28	<2024年> 2/3～2/6
結果公表	4月26日	11月1日	4月28日	11月7日	9月27日	未定
選定数	26 (提案数79)	20 (提案数50)	16 (提案数58)	12 (提案数54)	9 (提案数46)	

脱炭素先行地域の選定状況（第1回～第5回）

■ 第1回から第5回までで、全国38道府県108市町村の**81提案**が選定となった。

年度別選定提案数（共同で選定された市町村は1提案としてカウント、括弧内は応募提案数）

R4		R5		R6
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
25 (79)	19 (50)	16 (58)	12 (54)	9 (46)



尼崎市：阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画～地域課題解決型！官民連携事業～

ゼロカーボンベースボールパーク
公式HP



脱炭素先行地域の対象：小田南公園内タイガース野球場等、大物公園、大物川緑地、阪神電車尼崎駅等市内6駅、尼崎車庫

主なエネルギー需要家：公園緑地3か所、小田南公園内の野球場2施設、選手寮兼クラブハウス、室内練習場、鉄道6駅、尼崎車庫
共同提案者：阪神電気鉄道株式会社

取組の全体像

人口減少が進む市南部大物地域の小田南公園に阪神タイガースファーム施設が移転することにあわせ、同公園内の野球場、練習場等のスポーツ施設、大物公園に**太陽光発電・蓄電池**を導入するとともに、不足する電力をごみ発電の余剰電力を活用し**ゼロカーボンベースボールパーク**を実現する。あわせて、市内の阪神電車の駅（6駅）及び尼崎車庫を太陽光等により脱炭素化するとともに、EVバスの導入、**ゼロカーボンナイター**の開催等を行い相乗効果を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- 各施設において省エネを徹底し、選手寮兼クラブハウス、室内練習場、尼崎車庫内の新築建物については**ZEBReady**を目指す。施設の形状等が特殊なタイガース野球場は**ZEBOriented**を目指す
- タイガース野球場及び室内練習場には**太陽光発電(計710kW)**と**蓄電池**を導入し、最大限**自家消費**するとともに、不足する電力についてはクリーンセンターの**廃棄物発電の余剰電力**を活用
- 災害時の避難場所に指定されている大物公園・大物川緑地には**太陽光発電(7.6kW)・蓄電池・太陽光発電付き公園灯**を導入
- 市内鉄道駅舎6駅・車庫については、**太陽光発電(計1,121kW)**を導入し、自家消費を行いつつ、各駅・車庫間で融通し、不足分は再エネ電力を調達。さらに、照明・空調の省エネ化を図る。
- 回生電力を有効活用するため、**駅舎補助電源装置**を導入



脱炭素先行地域エリア

2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ゼロカーボンベースボールパーク**として公園内や試合の中で脱炭素の取組を周知し、**ゼロカーボンナイター**（RE100、バイオマス素材の活用、プラスチックサイクルの強化）の開催等に取り組む
- 鉄道網が発達している東西の移動に比べて交通手段が限定される南北の主要交通手段である**路線バスへのEV(26台)導入**

3. 取組により期待される主な効果

- 阪神タイガースファームの試合**だけでなく、試合以外のイベント等に多くの集客が見込まれており、これらの来場者に対して、阪神グループと協力して**駅の脱炭素化**、EVバス・シェアサイクルの導入など来場時の交通の脱炭素化を進めることや、先行地域内で行われる脱炭素の取組（ゼロカーボンナイターの開催、廃棄物発生抑制及びリサイクルの推進など）をPRすること等により、小田南公園を含むエリア全体での**交流人口の増加による経済効果**と**市民等の行動変容**を同時達成

4. 主な取組のスケジュール

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
公園・緑地	設計	再整備工事				・ゼロカーボンナイターの開催 ・脱炭素関係のソフト事業の推進
鉄道駅舎		大物駅・杭瀬駅の工事(太陽光)	尼崎センタープール前駅の工事(太陽光) 大物駅・尼崎駅の工事(LED)	杭瀬駅・出屋敷駅の工事(空調) 尼崎センタープール前駅、杭瀬、出屋敷駅の工事(LED)	武庫川駅の工事(太陽光)	
尼崎車庫				新築建物のZEBReady化、LED導入工事	駅舎補助電源装置の導入	工場等の工事(太陽光)
その他				EVバスの導入及び運行		シェアサイクルの導入

ゼロカーボンベースボールパーク

ZERO CARBON BASEBALL PARK



施設概要

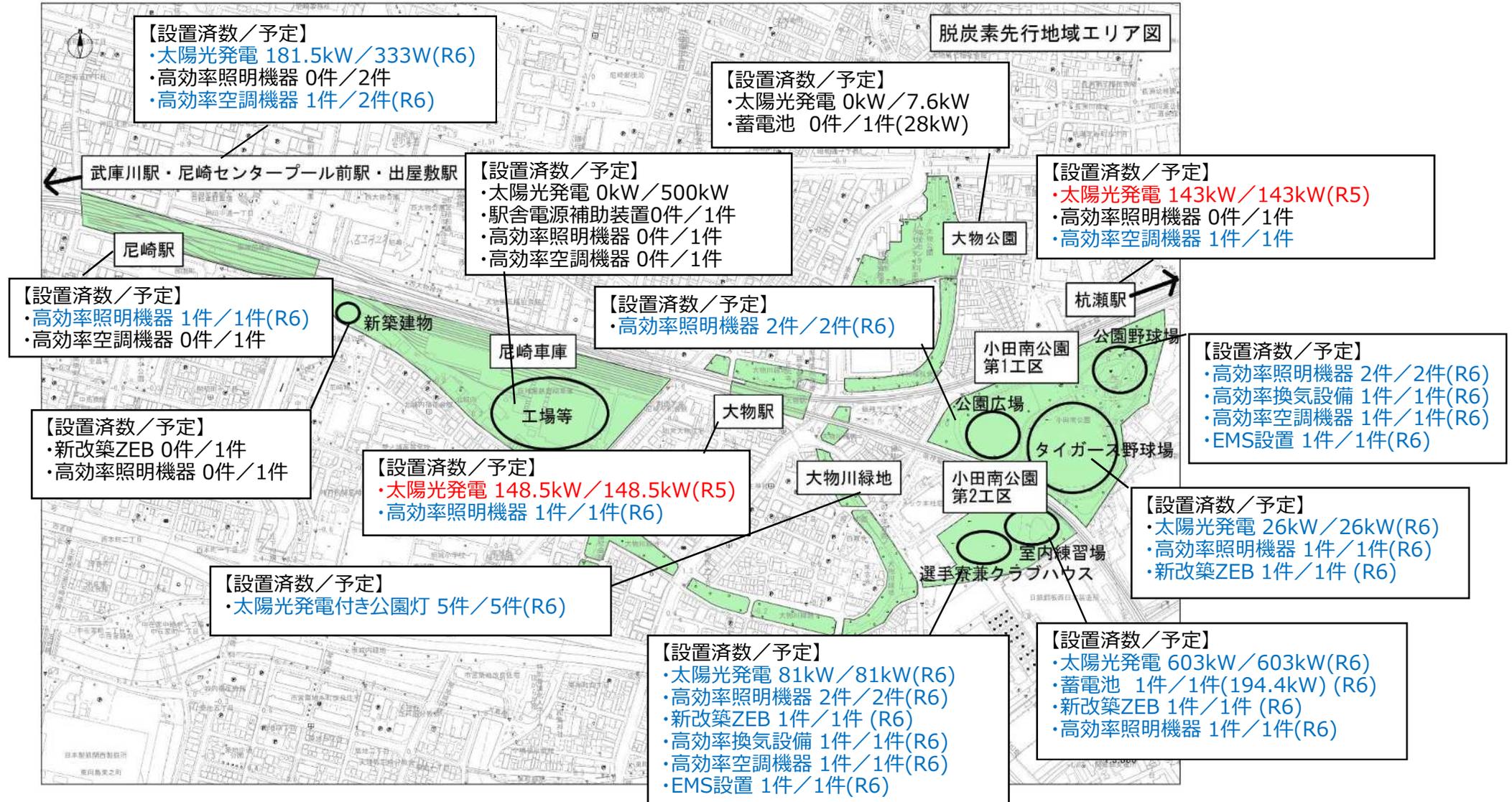
全体敷地面積	敷地面積 約74,387㎡ ※第1工区:約56,183㎡ 第2工区:約18,204㎡	
野球場	日鉄鋼板 SGLスタジアム 尾崎	
	グラウンド	両翼95m、中堅118m ※方角やグラウンドの形状・仕様は甲子園球場と同じ
		12,647㎡ 内野:黒土 外野:天然芝 外野フェンス際:人工芝 ※ファールグラウンド一部は人工芝(甲子園同様)
	スタンド座席数	約3,600席(車いす席:20席(介助者席同数)) ※外野800人収容可能(座席は無)
	ナイター照明	LED照明 6基(高効率照明)
	防球ネット	(外周)内野~外野:55m 外野55~30m、(内野)観客席最上部の高さまで
	バックスクリーン	ビジョン(19.2m×7m、高効率照明) ※甲子園:約30m×約8m
	ブルペン	ホーム・ビジター側ともに各2レーン
	ランニング走路	グラウンド外(外野スタンド)に専用走路
	環境設備	太陽光パネル、ZEBOriented(省エネ▲30%~▲40%以上)
室内練習場	(仮称)小田南公園野球場	
	グラウンド	両翼:90m 中堅93m 内野:黒土 外野:天然芝
		内野練習場 内野:黒土 その他:天然芝
	収容人数	観客席50席
	ナイター照明	LED照明4基(高効率照明)
面積	建築面積 6,175㎡ ※約65m×約90m	
選手兼クラブハウス	内野	60m×60m、ダイヤモンド有(内野守備練習可)
	ブルペン	6レーン
	打撃練習場	打撃練習6レーン ※内野エリア3レーン、固定3レーン(ボール自動回収)
	環境設備	太陽光パネル、蓄電池、ZEBReady(省エネ▲50%以上)、高効率照明他
	その他	コンディショニングエリア(トレーニングエリア) 更衣室(シャワー有)、ロッカールーム等諸室
選手兼クラブハウス	面積	建築面積2,184㎡ 延床面積3,671㎡(1階 2,152㎡ 2階 881㎡ 3階 638㎡)
	部屋数	38部屋 ※将来対応として5部屋増設可
	トレーニングルーム	約300㎡ ※現在(鳴尾浜施設)は約220㎡
	選手ロッカー	約260㎡ ※現在(鳴尾浜施設)は約120㎡
	環境設備	太陽光パネル、ZEBReady(1階クラブハウス部分のみ。省エネ▲50%以上)、高効率照明他
	その他	流水リハビリ・トレーニングプール施設 ※現在(鳴尾浜施設)は無

尼崎市脱炭素先行地域での取組状況

再エネ導入量
1,183kW / 1,831kW
(R7.3末時点)

尼崎市脱炭素先行地域での取組状況は以下のとおり。

なお、令和6年度の取組は、3月末現在の予定を記載しているため、変更となる可能性あり。



尼崎市脱炭素先行地域での取組状況



ゼロカーボンベースボールパーク（令和7年1月撮影）



大物駅に導入された太陽光発電



杭瀬駅に導入された太陽光発電



室内練習場に導入された太陽光発電
（ゼロカーボンベースボールパークのマスコットキャラクター「コラッキー」）



スコアボード裏に導入された太陽光発電



阪神バス(株)に導入されたEVバス



大物駅装飾



ゆうあい歩道装飾



大物川緑地装飾